

富永神社と牛頭天王



この扁額は富永神社が「牛頭天王社（ごずてんのうしや）」と称されていた頃、社殿に掲げられていたもので、富永神社で大切に保管されています。



富永神社

神社会館

新城市宮ノ後 78

電話 22-1969

開館日時

月・火・木・金

午前 9時～12時

午後 1時～3時

ホームページ



富永神社は、下平井村にあった「天一天王社」の御分霊を勧請し、若宮として慶長八年（一六〇三）二月三日、現在の地に創建されました。

はじめは、「牛頭天王社（天王様）」と称し、祭神は「牛頭天王」でした。

その後、明治元年の太政官布告（神仏分離令）により、仏教的な要素を持つ「牛頭天王」という称号は排除され、神社名は「富永神社」と改称され、祭神は「須佐之男命（すさのうのみこと）」となりました。

「牛頭天王」は、釈迦生誕地にあるインドの祇園精舎の守護神であり、神仏習合における疫病除けの神として古くから絶大な信仰を集めました。日本の神話に登場する「須佐之男命」は、牛頭天王と同一視され、明治になり「牛頭天王」を祀る神社の多くは祭神を「須佐之男命」とされました。

京都八坂神社も江戸時代までは、「祇園社」「牛頭天王社」などと呼ばれていましたが、明治になり名称が変更されました。八坂神社を総本社とする祇園信仰は、疫病や災害から人々を守る力があると信じられ、各地の神社で同様の祭り（祇園祭）が行われる様になりました。

富永神社においても、祇園祭は大事なお祭りとなっています。

「第六十三回式年遷宮・第一次お木曳行事」に
富永神社の関係者も参加をしました

神社庁新城支部主催の「第一次お木曳行事参加旅行」（総勢四十名）が、令和八年五月十五～十六日の二日間で企画され、富永神社からも夏目宮司他 富永神社崇敬者の十二名が参加しました。

十五日は二見興玉神社で禊（みそぎ）を行い、十六日は午前十時頃より伊勢宮町交差点から外宮まで、二番車をおよそ一時間かけて奉曳（ほうえい）しました。天候にも恵まれた素晴らしい二日間となりました。



結 婚 式

六月十八日（木）、梶田家と加藤家の結婚式が執り行われました。



初 参 り

五月二日（土）、森田様の初参りが執り行われました。



安 産 祈 願

五月二十四日（日）、夏目様の安産祈願が執り行われました。



「押し絵」のご寄贈がありました



豊川市樽井町にお住いの、押し絵作家・尾藤孝代様から、新城能楽社の今泉英三様を通じて、能を題材とした「押し絵」のご寄贈を頂きました。

七月一日（火）、尾藤様ご夫妻と今泉英三様のご列席のもと「押し絵奉納奉告祭」が斎行されました。

素晴らしい作品です。富永神社会館ロビーに展示致しますので、皆様にご覧いただきたいと思ひます。

（右側より）
尾藤幹男様
尾藤孝代様
今泉英三様

「神前幕」のご寄贈がありました



令和八年四月末で退任された氏子総代の三名様が、経年劣化による痛みが激しくなった社務所に設置される「神前幕」の、新調ご寄贈をして頂きました。

七月一日（火）の月次祭神事で神様に奉告し、お祓いを行いました。
早速、祇園祭より設置させて頂きます。

第二回 除 草 作 業

五月三十一日（日）、氏子総代会と、各区氏子会会長及び敬神奉賛会の皆様方の協力を得て、本年度第二回目の除草作業が実施されました。大変綺麗になりました。ご協力有難うございました。



【御祈禱の受付】

結婚式、安産祈願、初宮参り、金・銀婚式、厄年祓い、車両交通安全、合格祈願、作業安全祈願等ご祈禱の受付をしています。ご祈禱を希望される方は、事前に神社会館受付へお申し込みください。

（電話番号）二二一九六九

（受付時間）月・火・木・金曜日

午前九時～十二時・午後一時～三時

（御祈禱料）五千元から

※出張祭典の場合は別途ご相談ください。